

ル處分、第九條ノ規定ニ依ル輸出若ハ輸入ノ命令、第十一條ノ規定ニ依ル資金ノ融通若ハ有價證券ノ應募、引受若ハ買入ノ命令又ハ第十六條ノ規定ニ依ル設備ノ新設、擴張若ハ改良ノ命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

第二十八條 政府ハ第二十二條、第二十三條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ命令ヲ爲ス場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償シ又ハ補助金ヲ交付ス

第二十九條 前二條ノ規定ニ依ル補償ノ金額及第十五條ノ規定ニ依ル拂下ノ價額ハ總動員補償委員會ノ議ヲ經テ政府之ヲ定ム

總動員補償委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 政府ハ第二十六條又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ利益ノ保證又ハ補助金ノ交付ヲ受クル事業ヲ監督シ之ガ爲必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ當該

官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

第三十二條 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル物ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴スルコトヲ得

第三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第七條ノ規定ニ依ル命令又ハ制限若ハ禁止ニ違反シタル者
- 二 第八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
- 三 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲サザル者

四 第十條ノ規定ニ依ル總動員物資ノ使用又ハ收用ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

五 第十三條ノ規定ニ依ル施設、土地若ハ工作物ノ管理、使用若ハ收用又ハ從業者ノ供用ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

六 第十九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十一條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者

二 第十六條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者

三 第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケズシテ統制協定若ハ統制規

程ヲ設定、變更若ハ廢止シ又ハ第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四 第二十三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ保有ヲ爲サザル者

五 第二十六條ノ規定ニ違反シ生産、修理又ハ設備ヲ爲サザル者

第三十五條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第三十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ノ規定ニ依ル徵用ニ應ゼズ又ハ同條ノ規定ニ依ル業務ニ從事セザル者

二 第六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

二 第二十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ計畫ノ設定又ハ演練ヲ爲サザル者

三 第二十五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ試験研究ヲ爲サザル者

第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ組合ノ設立ヲ爲サザル者

二 第三十條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

三 第三十一條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

第三十九條 第二十條第一項ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ發行人及編輯人、其ノ他ノ出版物ニ在リテハ發行者及著作者ヲ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

新聞紙ニ在リテハ編輯人以外ニ於テ實際編輯ヲ擔當シタル者及掲載ノ記事ニ署名シタル者亦前項ニ同ジ

第四十條 第二十條第二項ノ規定ニ依ル差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 前二條ノ罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セズ

第四十二條 第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月

以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 第二十一條ノ規定ニ違反シテ申告ヲ怠リ又ハ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第四十四條 總動員業務ニ從事シタル者其ノ業務遂行ニ關シ知得シタル當該官廳指定ノ總動員業務ニ關スル官廳ノ機密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者職務上知得シタル當該官廳指定ノ總動員業務ニ關スル官廳ノ機密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第四十五條 公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ノ規定ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル法人又ハ人ノ業務上ノ祕密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 第十八條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ設立シタル組合ノ役員其ノ職務ニ關シ  
賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ  
爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハ  
ザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第四十七條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ  
懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十八條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者其ノ法人又ハ人  
ノ業務ニ關シ第三十二條乃至第三十四條、第三十六條第二號、第三十七條、第三十八條又ハ第  
四十三條前段ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ各本

條ノ罰金刑又ハ科料刑ヲ科ス

第四十九條 前條ノ規定ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ

本法ノ罰則ハ本法施行地外ニ於テ罪ヲ犯シタル帝國臣民ニモ之ヲ適用ス

第五十條 本法施行ニ關スル重要事項(軍機ニ關スルモノヲ除ク)ニ付政府ノ諮問ニ應ズル爲  
國家總動員審議會ヲ置ク

國家總動員審議會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

### 附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

軍需工業動員法及昭和十二年法律第八十八號ハ之ヲ廢止ス



本法施行前軍需工業動員法ニ基キテ爲シタル命令又ハ處分ハ之ヲ本法中ノ相當規定ニ基キテ爲シタルモノト看做ス

軍需工業動員法ニ違反シタル者ノ處罰ニ付テハ仍舊法ニ依ル

國家總動員法案理由書

近代國防ノ特質ニ鑑ミ國家總動員ノ實施及準備ニ付準據スベキ法規ヲ制定シ現下時局ノ推移及將來ノ戰時事變ニ備フルノ要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

秘 秘

閣第一三七號

案起

昭和十四年五月三十一日

閣議決定

昭和十四年五月三十一日施行

昭和十四年五月三十一日

總理大臣

近 衛 文 相

內閣書記官長



內閣書記官



外務大臣

重 光

陸軍大臣

東 條 英 機

文部大臣

有 田 龍 雄

逓信大臣

齋 藤 實

厚生大臣

板 垣 退 三

內務大臣

高 橋 是 次

海軍大臣

山 本 徹 三

農林大臣

堀 内 正 雄

鐵道大臣

長 谷 川 清

拓務大臣

中 谷 正 一

大藏大臣

三 橋 達 郎

司法大臣

三 木 武 吉

商工大臣

大 谷 友 武

拓務大臣

中 谷 正 一

別紙企畫院總裁上申

昭和十四年度交通電力動員實施

計畫細領ニ関スル件  
右閣議ニ供ス

通牒案

昭和十四年五月二十六日

内閣書記官長

企畫院總裁宛

依命通牒

昭和十四年五月二十五日企畫院上申第五一號  
ヲ以テ上申ニ係ル昭和十四年度交通電力

動員實施計畫綱領ニ関スル件上申ノ  
通閣議決定相成候

内  
目

主任 第六部 山口調査官

企畫院上申第五一號

昭和十四年五月二十五日

企畫院總裁 青木



內閣總理大臣 男爵 平沼騏一郎 殿

昭和十四年度交通電力動員實施計畫綱領ニ關スル件

昭和十四年度交通電力動員實施計畫綱領別紙ノ通閣議決定相成様致度  
此段及上申候

關甲一三七

內閣

總動員  
機密取扱

昭和十四年五月二十四日

昭和十四年度

交通電力動員實施計畫綱領

企計區交三號

企

畫

院

IMT 682

202

第	第	第	第	第	第	第	第
八	七	六	五	四	三	二	一
章	章	章	章	章	章	章	章
電	通	空	港	船	陸	鐵	總
					上		
					運		
力	信	運	灣	船	送	道	則
					(含小運送)		



昭和十四年度交通電力動員實施計畫綱領

第一章 總則

第一 本綱領ハ昭和十四年度交通電力動員實施ニ關スル準繩ヲ定ムルモノトス

第二 本綱領ノ目的ハ「昭和十四年度國家總動員實施計畫設定ニ關スル件」(昭和十三年九月十三日閣議決定)ニ基キ長期戰時態勢ノ強化ヲ目標トシ重要物資ノ動員、勞務ノ動員、資金竝ニ貿易ノ統制ト相俟テ交通電力ノ動員ノ計畫ヲ策定シ以テ軍需充足ヲ主眼トスル外物資動員ノ實行ノ完璧ヲ期スルト共ニ日滿支間ニ於ケル運輸通信ノ調整ヲ圖ルニ在リ

第三 昭和十四年度ノ需要量ハ昭和十三年度ノ實績ノ概ネ一割増ヲ標準トス

第四 各應ハ本綱領ニ依リ發ニ「昭和十四年度交通電力動員實施計畫設定ニ關スル件」ニ基キ策定セル計畫ニ所要ノ修正ヲ加ヘ之ヲ昭和

十四年六月末日迄ニ企畫院ニ提出スルモノトス

第五 各廳ハ其ノ設定セル計畫ニ基キ動員ヲ實施スルモノトス

第六 動員計畫設定竝ニ實施上特ニ重點トスル事項左ノ如シ

一 軍需ノ充足竝ニ物資動員ノ圓滑ナル遂行ヲ期スル爲適正ナル措置ヲ講ズルコト

二 各廳ノ定ムル交通電力動員實施計畫ハ昭和十四年度物資動員計畫ニ吻合スル如ク定ムルコト

三 以上ノ目的遂行ノ爲所要ニ應ジ各廳ハ一般運輸通信及電力ニ對シ夫々適正ナル管制方策ヲ講ズルコト

四 以上ニ依リ生ジタル交通能力ノ特ニ大ナル支障ニ對シテハ交通電力動員委員會ニ依リ之ヲ調整スルコト

五 別ニ想定セララルル特殊輸送ノ遂行ノ爲生ズルコトアルベキ各種ノ支障ニ對シテハ更ニ關係各廳ニ於テ適正ナル管制ノ方策ヲ樹立スルコト

六 前號ニ依リ更ニ人員、資材ノ補填ヲ必要トスル場合ハ企畫院ニ於テ其ノ總量ヲ集計ノ上之ガ確保ニ付別途適正ナル計畫ヲ樹立スルコト

第七 北、中、南支竝ニ蒙疆ニ對シテハ本綱領ニ準ジ關係廳ト連絡ノ上興亞院ニ於テ適宜措置スルモノトス

第八 昭和十七年ヲ目標トスル交通電力ニ關スル長期整備計畫ハ別ニ樹立スルモノトス 但シ生産力擴充計畫ニ包含セララルモノハ該計畫ニ據ルモノトス

第九 交通電力動員計畫實施ニ關聯シ必要ナル事項左ノ如シ  
一 内外地竝ニ日滿支ノ交通ヲ有機的ニ綜合調整スル爲必要ナル機關ヲ整備スルコト

二 現下ノ物價政策ニ對應シ運輸通信電力ノ運賃料金ヲ適正ニ規正スルコト

三 現下物資輸送ノ逼迫ヲ救済スル爲海陸運輸ノ有機的統制ニ依リ

輸送力ノ綜合的運用ヲ圖ルコト

4

## 第二章 鐵道

第十 内外地滿洲ニ於ケル各鐵道機關ハ其ノ建設改良ニ關シ左ノ方針ニ準據スルモノトス

- 一 内地鐵道ハ現下國內物資需給ノ實情ニ鑑ミ輸送力擴充ニ重點ヲ置キ特ニ幹線輸送路ノ增強及所要輪轉材料ノ充實ヲ計リ鐵道新線ノ建設ハ軍事上及生産力擴充上眞ニ已ムヲ得ザルモノニ止ムルコト
  - 二 朝鮮鐵道ハ其ノ軍事上ノ使命ニ鑑ミ幹線ノ複線化、所要輪轉材料ノ充實及平行線ノ完成ヲ計リ以テ輸送力ノ增強ヲ行フコト
  - 三 滿洲鐵道ハ現下ノ時局ニ鑑ミ特ニ所要輪轉材料ノ充實及幹線輸送力ノ增強等ノ各種改良計畫ノ充實ヲ期スル如ク措置スルコト
- 第十一 鐵道ニ關シ特ニ措置スベキ事項左ノ如シ

一 生産力補充計畫ノ進展ニ伴ヒ九州北海道ニ於ケル石炭輸送並ニ青函・關釜間等ニ於ケル貨客連絡輸送ニ關スル海陸運輸ヲ調整スルコト

二 大都市及其ノ近郊ノ旅客交通及各地工場増加ニ伴フ人員及物資輸送ヲ調整スルコト

三 國內ニ於ケル主要物資ニ付テハ特ニ期間的計畫輸送ヲ行ヒ又輸送ノ交錯、重複ヲ抑制スルコト

四 重要物資輸送ノ圓滑適正ヲ期スル爲物資輸送順位ヲ定ムルコト

五 内外地輸支ヲ進ズル鐵道要員ノ養成ニ關シ適切ナル方策ヲ講ズルコト

### 第三章 陸上運送（含小運送）

第十二 日滿支交通體制ノ確立ニ相應シ且陸運能力ヲ昂揚スル爲重要道路ノ改良ニ努ムルモノトス

第十三 道路ニ關シ特ニ措置スベキ事項左ノ如シ

一 新京滬國道及關門國道ハ特ニ急速完成ヲ期スルコト

二 工業地帯ニ於ケル重要道路ノ整備ヲ期スルコト

三 大都市及其ノ附近ノ重要道路ノ整備ヲ期スルコト

四 特殊營造物又ハ工場集菜場ト密接ナル關聯ヲ有スル道路ノ整備

ヲ期スルコト

五 既改良幹線道路ヲ補裝スルコト

第十四 自動車保有量ノ増補ト燃料節約ノ方針トニ對應シ現在ノ亂脈

無統制ナル貨物自動車運輸ヲ改善シ之ガ適正ナル發達ヲ圖ル爲速ニ

自動車運送制度ヲ確立スルモノトス

第十五 自動車運輸ニ關シ主務廳ノ機構ヲ整備擴充スルモノトス

第十六 小運送ノ改善、合理化ノ徹底ヲ期スル爲具體的方策ヲ樹立シ

之ヲ實行スルモノトス

#### 第四章 船舶

第十七 船舶ニ關シテハ軍需充足ノ外重要物資ノ輸送ノ圓滑及遠洋航路ノ充實ヲ期スルモノトス

第十八 船舶ノ特性ニ鑑ミ日滿支ヲ通ズル船舶運輸ノ綜合的調整ヲ圖ルモノトス

第十九 船隻ニ關シ特ニ措置スベキ事項左ノ如シ

一 不足船舶補填ノ爲船舶新造ノ促進及外國船ノ備入要スレバ輸入

ニ關シ必要ナル措置ヲ講ズルコト

二 重要物資輸送ノ圓滑ヲ確保スル爲

イ 期間別配船豫定計畫ヲ樹立シ之ヲ實施スルコト

ロ 團體的輸送契約制ノ實行ヲ促進スルコト

ハ 物資輸送順位ヲ設定スルコト

三 小型汽船、機附帆船及帆船ニ依ル重要物資輸送計畫及之ニ必要

ナル小型汽船、機附帆船及帆船ノ補填及管制ニ關スル計畫ヲ樹立

シ之ヲ實施スルコト

四 遠洋航路充實ニ關スル具體的方策ヲ樹立シ之ヲ實施スルコト

- 五 配船統制ヲ行フ爲強力ナル機構ヲ急速整備スルコト
- 六 船員ノ充實ヲ圖ル爲適切ナル措置ヲ講ズルコト
- 七 時局ニ對應スル爲海事行政機構ヲ整備補充スルコト

第五章 港 灣

第二十 港灣ニ關シ措置スベキ事項左ノ如シ

- 一 各港灣ヘノ輸送ノ配分又ハ使用ノ方法、時期等ニ關シ考慮スルコト
- 二 水上ニ於ケル船舶群等ノ供給ヲ圓滑ニシ貨物ノ陸揚積込ヲ容易ナラシムルコト
- 三 港灣行政ノ統一簡易化、港灣事業ノ統制合理化ヲ圖リ港灣ノ利

8



用ヲシテ能率的ナラシムルコト

第二十一 港灣施設ニ關シ特ニ措置スベキ事項左ノ如シ

一 生産力擴充計畫ノ進展ニ伴ヒ九州北海道ニ於ケル石炭輸送ニ對スル港灣施設ヲ整備スルコト

二 内地朝鮮間ノ輸送ノ圓滑ニ必要ナル關係各港灣ノ施設ヲ整備スルコト

三 大阪港門司港等ノ如キ現有能力ノ著シク不足スル主要港灣ニ對シテハ所要ニ應ジ其ノ能力ノ增強調整ヲ爲スコト

四 大連港ノ現況ニ鑑ミ之ガ施設ヲ增強シ其ノ運営ヲ合理化スルコト

五 北支開發ノ進展ニ伴ヒ之ニ必要ナル港灣施設ヲ整備スル如ク措置スルコト

第六章 空 運

第二十二 航空輸送ノ特性ニ鑑ミ日滿支ヲ通ズル航空輸送ノ綜合的調  
整ヲ圖ルモノトス

第二十三 空運ニ關シ特ニ措置スベキ事項左ノ如シ

- 一 航空保安施設ヲ擴充整備スルコト
- 二 航空機ノ國産化ヲ圖ルコト
- 三 國際航空路網ノ擴充ヲ圖ルコト
- 四 航空要員ノ充實ヲ圖ルコト

第七章 通 信

第二十四 電氣通信施設ニ關シ特ニ措置スベキ事項左ノ如シ

- 一 東亞電氣通信網ヲ確立スル爲内外地間及日滿支間ノ連絡通信施設ヲ整備擴充スルコト

二 主要地間ノ連絡通信施設殊ニ市外電話回線ヲ整備スルコト

三 通信施設ノ合理的建設並ニ運用ニ努ムルコト

第二十五 日滿支ヲ通ジ放送網ノ相互連絡ヲ圖ルト共ニ放送ニ關スル

諸施設ヲ整備擴充スルモノトス

第二十六 通信要員特ニ無線有技者ノ養成ニ關シテハ日滿支ヲ通ジ需

給ノ狀況ヲ考慮シ適切ナル措置ヲ講ズルモノトス

第二十七 時局關係重要通信ノ秘密ヲ確保スルト共ニ通信ノ取締ニ遺

憾ナキ如ク臨機適切ナル措置ヲ講ズルモノトス

## 第八章 電力

第二十八 電力消費ノ規正ニ關シ適切ナル措置ヲ講ズルモノトス

十

總動員機密

月甲第一四一號

起

昭和十四年六月十二日

閣議決定  
昭和十四年六月十六日  
施行

昭和 年 月 日

極秘

此

內閣書記官長

內閣書記官

外務大臣

陸軍大臣

文部大臣

遞信大臣

厚生大臣

近衛機密院藏

內務大臣

海軍大臣

農林大臣

鐵道大臣

大藏大臣

司法大臣

商工大臣

拓務大臣

五

六

五

五

乃

五

五

五

五

五

別紙企畫院總裁上申

昭和十五年年度以降國家總動員計畫

紙經

十

閣甲第一四一號

案起

昭和十四年六月十二日

閣議決定

昭和十四年六月十六日

裁可

昭和

年

月

日

施行

昭和

年

月

日

內閣總理大臣

近衛

內閣書記官長

福田

內閣書記官

福田

佐藤

近衛

近衛

外務大臣

近衛

陸軍大臣

近衛

文部大臣

尾崎

遞信大臣

近衛

厚生大臣

近衛

內務大臣

海軍大臣

近衛

農林大臣

近衛

鐵道大臣

近衛

近衛

近衛

大藏大臣

近衛

司法大臣

近衛

商工大臣

近衛

拓務大臣

近衛

別紙企畫院總裁上申

昭和十五年年度以降國家總動員計畫

設定方針ニ関スル件  
右閣議ニ供ス

通牒案

昭和十四年六月十六日

内閣書記官長

企畫院總裁宛

依命通牒

昭和十四年六月十日企畫院上申第五五號ヲ以テ  
上申ニ係ル昭和十五年度以降國家總動員

計畫設定方針ニ關スル件上申ノ通閣議  
決定相成候

主任官 岸 調査官

企畫院上申第五五號

昭和十四年六月十日

企畫院總裁 青木一男



內閣總理大臣男爵 平沼騏一郎 殿

昭和十五年度以降國家總動員計畫設定方針ニ關スル件上申

標記ノ件別紙ノ通閣議決定相成様致度理由ヲ具シ此段及上申候



閣甲一四一

内閣



理 由

昭和十五年度以降ニ適用スベキ國家總動員計畫設定方針ヲ決定  
シ速ニ業務ニ着手スル要アルニ由ル

内  
閣

總動員  
機密取扱

昭和十五年度以降國家總動員計畫設定方針

第一章 總 則

1

一 昭和十五年度以降ニ對スル國家總動員計畫ハ年度實施計畫ト昭和十七、十八年度ニ適用スベキ期間計畫（以下第四次總動員期間計畫ト稱ス）ノ二ツニ付之ヲ設定ス

尙右計畫ノ進捗ニ伴ヒ基本計畫綱領ニ所要ノ補修ヲ加ヘ之ヲ完成ス

二 計畫設定ノ要領ハ概ネ總動員計畫設定處務要綱ニ準據スルモ特ニ必要アルモノニ付テハ企畫院各總ト協議シテ之ヲ定ム

三 計畫設定ニ當リテハ日滿支ノ總力ヲ最モ有效ニ發揮シ得ル様特ニ滿支兩國トノ連繫ヲ緊密ナラシム

第二章 年度實施計畫ノ設定

一 年度實施計畫ハ今次事變處理ノ爲特ニ毎年度計畫的ニ實施スル必要アル事項ニ付計畫シ戰局ノ擴大又ハ經濟壓迫ヲ蒙リタル場合ニ對

應スベキ措置ヲモ併セ考慮スルモノトス

二

二 年度實施計畫ニ於テハ別ニ企畫スル國家總動員準備ニ關スル長期整備計畫ノ年度別計畫ノ實現ヲ圖ル如ク考慮スルモノトス

三 年度實施計畫設定ノ範圍ハ人員、物資、交通、電力、資金、貿易、物價、科學研究、精神作興等ニ關スル事項トスルモ時局ノ狀況ニ應ジ適宜其ノ範圍ヲ變更スルコトヲ得

四 年度實施計畫ニ計畫スベキ各事項ノ細目及其ノ程度竝ニ設定ノ要領ハ當該國家總動員業務委員會ニ於テ之ヲ定ム

五 年度實施計畫ハ毎年十一月末迄ニ翌年度ノモノヲ概定シ二月末日迄ニ之ヲ決定ス

第三章 第四次總動員期間計畫ノ設定

一 第四次總動員期間計畫ハ將來戰ニ適用スベキ計畫トシ其ノ適用年次ヲ昭和十七、十八年度トシ昭和十六年度末迄ニ之ヲ完成ス

二 第四次總動員期間計畫ハ(一)國家總動員上必要ナル方策措置ニ關スル事項(以下統制運用計畫ト稱ス)ト(二)資源ノ需給ニ關スル計數的事項(以下需給計畫ト稱ス)トニ付設定スルモノトシ其ノ範圍及程度ハ總動員計畫委員會ニ於テ之ヲ定ム

三 第四次總動員期間計畫ノ實施上豫メ整備シ置クヲ要スル事項ハ別ニ企畫スル國家總動員準備ニ關スル長期整備計畫及年度實施計畫ニ於テ盡力其ノ實現ヲ圖ル様措置スルモノトス

四 第四次總動員期間計畫ノ設定業務豫定別表ノ如シ

第四章 基本計畫ニ關スル事項

年度實施計畫、第四次總動員期間計畫ノ進捗ニ伴ヒ現行基本計畫綱領ニ所要ノ補修ヲ加ヘ之ヲ完成ス但シ總復員ニ關シテハ別途考究スルコトトス

三

(終)

別表

第四次總動員期間計畫設定業務豫定

昭和十四年度

計畫設定事務要綱ノ決定

計畫綱領概略案作成

昭和十五年度

計畫綱領決定

各廳計畫概略案作成

昭和十六年度

各廳計畫（地方行政廳及民間ヲシテ樹立セシ

ムベキ計畫ヲ含ム）ノ決定

計畫ノ補修及演練

四

(終)

88

參考

- 一、第四次總動員期間計畫設定事務要綱（昭和十四年六月九日總動員計畫委員會決定）
- 二、昭和十五年度以降ニ適用スベキ國家總動員計畫設定方針立案趣旨

公勤  
取  
扱員

第四次總動員期間計畫設定事務要綱

企 畫 院	昭和十四年六月五日	企 計 F 〇 〇 〇 三 號
-------------	-----------	--------------------------------------

72

(舊文書企計F〇〇三號(四)、參照文書企計F〇〇一號及企計F〇〇一號附屬)

第一 計畫ノ區分

- 一 計畫ハ次ノ二者ニ大別シテ之ヲ設定ス
  - イ 國家總動員上必要ナル方策措置ニ關スル事項ヲ規定スル統制運  
用計畫
  - ロ 資源ノ需給ニ關スル計數的專項ヲ規定スル需給計畫
- 二 統制運用計畫ニ付テハ計畫綱領及各應計畫ヲ設定スルヲ原則トシ  
需給計畫ニ付テハ計畫綱領ヲ設定スルノ外特ニ必要アルモノニ付テ  
ノミ各應計畫ヲ設定ス

第二 統制運用計畫

二

一 範圍及程度

(一) 統制運用計畫設定ノ範圍ハ概ネ別表第一ノ如ク定メ業務進捗ノ狀況ニ應ジ適宜其ノ範圍ヲ増減ス

(二) 統制運用計畫設定範圍ノ細目ニ付テハ必要ニ應ジ更ニ事項毎ニ設定要領ヲ定ム

(三) 統制運用計畫綱領ニ於テハ全般統轄上必要ナル事項及總動員實施ノ爲必要トスル各般ノ方策措置ノ大綱ヲ開戦初期及戰爭中(特ニ必要アルモノハ開戦前)ニ區分シ出來得ル限リ具體的ニ定ム

各般ノ方策措置ニシテ戰爭ノ情勢ニ應ジ多様ノ方途ヲ考慮シ得ル如キモノニ在リテハ其ノ實施ヲ適切ナラシムル様計畫スルモノトス

(四) 各應計畫ハ統制運用計畫綱領ニ定ムル各般ノ方策措置ノ大綱ニ基キ各應ニ於テ實施スル措置ノ細目ニ付之ヲ設定ス



地方行政廳及民間ヲシテ立案セシムベキ計畫ハ各廳ニ於テ之ヲ處理シ各廳計畫中ニ包含セシムルモノトス

(五) 統制運用計畫實施ノ爲豫メ特ニ整備シ置クベキ事項ハ當該計畫ニ於テ之ヲ明瞭ナラシムルト共ニ長期整備計畫及年度實施計畫ニ於テ之ガ實現ヲ圖ル様措置スルモノトス

二 設定ノ手續

(一) 計畫綱領ハ企畫院之ヲ立案シ各廳ニ協議ノ上閣議決定ヲ爲ス

(二) 各廳計畫ハ各廳ニ於テ企畫院及關係廳ト連繫ヲ執リテ之ヲ設定シ企畫院ヲ經テ內閣總理大臣ニ報告ス

三 資料ノ整備

(一) 統制運用計畫綱領ハ既往總動員期間計畫綱領、年度實施計畫、今次事變ニ於テ實施セル各般ノ方策措置ヲ檢討參酌シテ之ヲ設定スルモノトス

(二) 計畫綱領設定上必要アル資料ハ企畫院各廳ニ對シ之ガ提示ヲ求ム

ルモノトス

四

(三) 企畫院ニ於テ整備スベキ資料ハ各廳計畫ノ參考案トナルベキ程度  
ノモノトシ以テ計畫綱領ヲシテ空論化セシメサルコトニ着意スルモ  
ノトス

### 第三 需給計畫

#### 一 範圍及程度

(一) 需給計畫ニ於テハ昭和十七、十八年度ニ於ケル人員、家畜、物資、  
資金、運輸、通信及電力ニ關シ左記事項ヲ定ムルモノトス

#### 1 需 要 額

2 國內供給額（運輸、通信ニ在リテハ負擔能力以下同ジ）

3 不足額ニ對スル補填區分及補填額

4 國內供給額及補填額ノ配當區分及配當額

特ニ必要ナキモノニ付テハ配當額及配當區分ヲ定ムルコトナシ

(二) 需給計畫ニ包含スベキ資源ヲ概ネ別表第二ノ通り定ム但シ狀況ニ依リ適宜其ノ範圍ヲ増減ス

(三) 需給計畫實施ノ爲必要ナル各般ノ方策措置ハ統制運用計畫ニ之ヲ包含セシムルモノトシ特ニ必要アルモノニ付需給計畫ニ於テ定ムルモノトス

(四) 需給計畫ハ計畫編領ノ設定ヲ主トシ各廳計畫ハ特ニ必要アル場合ニ付之ヲ設定ス

(五) 需給計畫實施ノ爲際ニ特ニ整備シ措クベキ事項ハ當該計畫ニ於テ之ヲ明瞭ナラシムルト共ニ總動員準備ニ關スル長期整備計畫及年度別計畫ニ於テ之ガ實現ヲ圖ル様措置スルモノトス

二 國內供給額、補填額、需要額及配當額決定ノ要領  
物資ニ關スルモノ左ノ如シ其ノ他ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

A 國內供給額及補填額ノ決定

(一) 國內供給額ニハ昭和十七年、十八年度ニ於ケル設備全能力發揮ニ依ル國內生産額及利用可能在庫量ノ豫想額ヲ計上ス

二) 補填額ハ左記區分ニ依リ之ヲ計上ス

1 戰時特別増産額

既存設備ノ轉用ニ依ル分ト新設備ニ依ル増産分トノ兩者トシ資材、人員、資金、建設期間等ノ關係ヲ充分考慮シタル上戰時實行確實ナル分ニ付計上ス

2 戰時特別回收額

一般回收及工場返リ屑回收ニ依ル額ハ之ヲ國內生産額ニ包含ヤシムルモノトシ更ニ強度ノ回收ニ依リ取得シ得ル額ヲ計上ス

3 滿洲及支那ヨリ取得シ得ベキ額トス

滿洲及支那ヨリ取得シ得ベキ額トス

4 第三國輸入額

別ニ定ムル相定ニ基キ之ヲ定ム

5 代用額

(註) 節約ハ需要額決定ノ際之ニ極度ノ壓縮ヲ加フルコトニ依リ之ヲ考慮スルモノトシ特別ノ場合ノ外節約額ハ之ヲ補填額ニ計上セズ

B 需要額ノ決定

1 軍需

追テ之ヲ定ム

2 生産用需要、圓プロツク需要、輸出用需要、官需、一般民需

物資ニ關スル年度實施計畫ノ實績ヲ參照スルト共ニ戰時ノ狀勢ヲ豫

察シ最低限度ヲ定ム  
尚輸出用需要額ハ別ニ定ムル想定ニ基キ之ヲ定ム

C 配當額ノ決定

前記需要額區分ニ付計上シタル需要額ニ對シ國內供給額及補填額ヲ一應配當シ尙不足スル場合ニ於テハ各種需要ニ付再考察ヲ行ヒ出來得ル限リ軍需ヲ充足スル如ク各種需要ノ調節ヲ行ヒ最終案ヲ決定ス

三 設定ノ手續

(一) 計畫綱領ハ企畫院之ヲ立案シ各廳ニ協議ノ上閣議ニ報告ス

(二) 特ニ設定ノ必要アル各廳計畫ハ各廳ニ於テ企畫院及關係廳ト連繫ヲ執リテ之ヲ設定シ企畫院ヲ經テ內閣總理大臣ニ報告ス

七

四 資料ノ整備

計畫設定ニ必要ナル資料ハ生産力擴充計畫、物資動員計畫其ノ他ノ年度實施計畫、資金、人員、交通及貿易ニ關スル長期整備計畫等ヨリ得ラルルモノノ外企畫院ハ各廳ニ對シ資料ノ提出ヲ求メ之ヲ整備スルモノトス

第四 事務進捗ノ豫定

一應左ノ如ク概定スルモ出來得ル限り早期ニ完了スル如ク努ムルモノトス

至自	至自	至自	至自	至自	至自
一一	一一	一一	一一	一一	一一
七六	六六	五五	五五	四四	四四
一三	一〇	一三	一〇	一六	一五
三三	四三	六一	四三	三一	六一
一一	一一	一一	一一	一一	一一
計畫ノ補修及演練	各廳計畫(地方行政廳及民間ヲシテ樹立セシムベキ計畫ヲ含ム)決定	各廳計畫概略案作成	計畫綱領決定	計畫綱領概略案作成	計畫設定事務要綱決定

(終)

別表第一

統制運用計畫設定範圍

一 總動員實施ノ一般通則的事項

1 戰時轉移ノ一般要領

2 國家總動員上必要ナル方策措置ニ關スル基準的事項

3 資源ノ需給ニ關スル基準的事項

4 日滿支總動員實施調整ノ要領

二 總動員機關ニ關スル事項

1 戰時轉移ニ關スル事項

2 總動員機關間ノ業務調整ニ關スル事項

3 戰時特設機關ノ組織權限ニ關スル事項

三 國民精神作興ニ關スル事項

精神作興ニ必要ナル各般ノ方策措置特ニ國民團結ノ強化策等長期持久戰ニ必要ナル思想對策ニ關スル事項

四 總動員ニ必要ナル情報宣傳ニ關スル事項

1 情報宣傳ニ關スル總動員機關間ノ連絡ニ關スル事項

2 情報宣傳網ノ整備ニ關スル事項

3 情報蒐集及宣傳實施ノ一般要領

五 人員及國民生活ニ關スル事項

1 總動員勞務者ノ充足ニ關スル事項

2 勞務統制ノ各種方策ニ關スル事項

3 國民ノ保健、保護及救濟等ニ關スル事項

六 産業ニ關スル事項

1 重要物資ノ生産維持及増進ニ關スル事項

2 不急物資ノ生産制限及禁止ニ關スル事項

3 産業ノ轉換ニ關スル事項



- 4 事業ノ國營、管理、合同等ニ關スル事項
  - 5 物資ノ消費制限及禁止ニ關スル事項
  - 6 物資ノ移動規正、保有等物資ノ確保ニ關スル事項
  - 7 物資ノ配給ニ關スル事項
  - 8 代用品ノ利用ニ關スル事項
  - 9 物資ノ回收利用ニ關スル事項
- 七 科學研究ニ關スル事項
- 1 科學研究ノ聯絡統制ニ關スル事項
  - 2 科學研究機制等ノ聯絡統制ニ關スル事項
- 八 交通ニ關スル事項
- 1 戰時輸送系統ノ設定ニ關スル事項
  - 2 運輸施設ノ管理ニ關スル事項
  - 3 其ノ他運輸ノ統制ニ關スル事項
  - 4 海上保險ニ關スル事項

5 戦時通信網ノ整備ニ關スル事項

6 通信ノ統制ニ關スル事項

九 電力ニ關スル事項

1 電力ノ使用規正ニ關スル事項

2 電力ノ供給確保其ノ他電力統制ニ關スル事項

一〇 貿易ニ關スル事項

1 輸出ノ維持増進ニ關スル事項

2 輸入ノ制限禁止及必需品ノ輸入確保ニ關スル事項

3 輸出ノ制限禁止ニ關スル事項

4 貿易ノ統制ニ關スル事項

5 綜合輸出入計畫ニ關スル事項

- 一一 財政金融ニ關スル事項
- 1 軍事行動開始ニ因ル金融及證券恐慌防止ニ關スル事項
- 2 戰費ノ緊急支出ニ關スル事項
- 3 戰費ノ調達及支拂ニ關スル事項
- 4 インフレーション防止ニ關スル事項
- 5 對外支拂手段確保ニ關スル事項
- 6 戰時産業ヘノ融資ニ關スル事項
- 7 戰時荒廢産業救済ニ關スル事項
- 8 利潤ノ抑制ニ關スル事項
- 9 占領地通貨ニ關スル事項
- 10 其ノ他緊要ナル財政上ノ措置及金融統制ニ關スル各般ノ措置
- 一二 物價統制ニ關スル事項
- 一三 總動員ニ必要ナル警備ニ關スル事項
- 1 警備擔任官廳及關係廳間ノ聯絡ニ關スル事項

- 2 警備關係施設及人員ノ整備ニ關スル事項
- 3 機密保護ニ關スル事項
- 4 治安維持ニ關スル事項
- 5 重要施設及資源ノ防護ニ關スル事項
- 6 通信取締ニ關スル事項
- 7 防空ニ關スル事項
- 一四 戰時法令ノ準備ニ關スル事項
- 1 總動員法關係勅令整備ニ關スル事項
- 2 總動員法以外ニ必要トスル法令ノ準備ニ關スル事項

(附記)

損害補償及保險ニ付テハ各事項ニ關聯シ必要ナル計畫ヲ  
樹立スルモノトス

(終)

別表第二 第四次總動員期間計畫資源表

鑄							家	人	類別
類							畜	員	
特殊鋼塊	特殊鋼	鐵鑛	屑	低燐	普通通	鋼塊	豚馬牛		資源名
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	頭		單位
同石	別ニ細分類ス					別ニ細分類ス		細分類ハ別ニ定ム	備考

一五

	金屬鑛物類	非鐵金屬、非											
層電氣	銅	白	耐火煉瓦	コバルト	ニッケル	コバルト	ニッケル	ワタナヂウ	モリブデン	タングステン	ククロム	マニガン	フエロアロイ
銅	銅	金	瓦	ト	ル	鑛	鑛	鑛	鑛	鑛	鑛	鑛	イ
・	・	應	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	應
			製鐵用及其他用ヲ併セ計畫ス										別ニ細分類ス

アルミニウム原礦	アルミニウム屑	アルミニウム	水銀	アンチモン	アンチモン	ブリキ屑	錫	錫	亜鉛	亜鉛	鉛	鉛	銅
----------	---------	--------	----	-------	-------	------	---	---	----	----	---	---	---

〃 〃 應 旺 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

高級、普通品別トス

高級、普通品別トス

一七

黒鉛	電極用原料	電氣用カーボン	雲母	石綿	螢石	苦汁	マグネサイト	マグネシウム原鐵	マグネシウム	明礬石	礬土頁岩	ボーキサイト
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

水晶石ヲ含ム（製鐵用ヲ併セ考  
 慮ス）  
 高級、普通品別トス  
 同 右  
 坩堝用ヲ併セ考慮ス



ム 皮革、木材、ゴ											棉花、羊毛、パ ルプ、麻等
豚 牛 牛 革 皮 革	マ ニ ラ ヘ ン ブ	黄 麻	大 麻	苧 麻	亞 麻	製 紙 用 パ ル ブ	人 絹 用 パ ル ブ	羊 毛 ( 新 毛 )	製 綿 用 棉 花	紡 績 用 棉 花	ピ ツ チ コ ー ク ス
〃 〃 〃	〃	〃	〃	〃	吨	噸	英 噸	俵	〃	擔	噸
一九	ガ ン ニ ー 袋 ニ 付 併 セ 計 畫 ス										

マホガニー	バルサ	スプルス	アツシユ	飛行機用	パルプ用材	木	屑	生	タンニン材料	羊毛皮	兔毛皮	豚皮
					立方米				觔	枚	觔	

バララバー、ラテックス、ジロトン、  
 ガタバーチヤヲ含ム

石炭、石油類													
原	コ	粘	無	瀝	石	燐	南	リ	編	子	南	米	ク
	ー	結	煙	青		寸	米	ク	黒	ー	洋		ル
油	ス	炭	炭	炭	炭	材	材	ン	檀	ク	材	材	ミ
貯	、	、	、	、	廳	千	立	廳	千	、	、	、	立
						擔	方		擔				方
							米						米

パルプ用材及燐寸用材ヲ除ク

二一

<p>藥品等 化學成品、</p>											
<p>純 ベ ン ソ ー ル</p> <p>漁業鹽</p> <p>食料鹽</p> <p>工業鹽</p>	<p>食鹽</p>	<p>機織油</p>	<p>燈油</p>	<p>輕油</p>	<p>重油</p>	<p>自 動 車 用</p>	<p>航 空 用</p>	<p>揮 發 油</p>	<p>第 二 種</p>	<p>第 一 種</p>	
<p>、 、 、 、 施</p>		<p>、 、 、 、 、 、 、 、 坏</p>									

二  
二

肥	燐	力	硫酸	硝酸	ア	ヒ	ヒ	硫	硫	硝	石	ト	モ
	燐		酸	酸	ル	マ	化	化		酸	炭	ル	ー
	燐		ア	ソ	コ	マ	鐵	鐵		(	酸	オ	タ
料	燐	リ	ン	ー	ー	シ	鑽	鑽	酸	九	酸	ー	ー
	燐		モ	ダ	ル	油				八		ル	ソ
	燐		ニ							%)			ー
	燐		ヤ										ル

圓 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

ボ一メ五〇度ニ換算シ計書ス

硝酸ソーダ、硫酸アンモニヤ、カリ、  
過燐酸石灰以外ノ肥料トス

二三

食糧類											機械類			
米	金 屬 製 品	其 他 ノ 外 國 製 品	其 他 ノ 外 國 製 機 械 及 同 部 分 品	自 動 車	船 舶	貨 車	客 車	電 氣 機 關 車	機 關 車	鐵 道 車 輛	金 屬 工 作 機 械	醫 藥 品	礮 砂 原 鑽	礮 砂
千石	・		圓	臺	噸	・ ・ ・ ・			臺	圓	砵	・ 噸		
	工具、軸受類ヲ含ム			別ニ細分ス					別ニ細分シ輸入計書ノミニ付計書ス					

資 金	雜 品											
外 國 內 資 金	前 揭 資 源 以 外 之 要 點	水 產 物 其 他 之 罐 詰	獸 鳥 肉 罐 詰	牛 肉	混 合 飼 料	穀 類	高 粱	玉 蜀 黍	燕 麥	小 麥	裸 麥	大 麥
圓	圓	,	,	, 吨	,	,	,	千 吨	,	,	,	千 石
細分類ハ別ニ定ム												

二五

通	電	運					
信	力	輸					
有 無	電	航	港	船	小	自	鐵
線 線	力	空	灣	舶	運	動	道
		輸	輸	輸		車	輸
		送	送	送	送	送	送
通	K.W	、	、	、	、	、	瓩
電信及電話ニ細分ス							



昭和十五年度以降ニ適用スベキ國家  
總動員計畫設定方針立案趣旨

企畫院 第二部	企計P、〇〇一號附屬 一四、六、五
---------	----------------------

72

國家總動員計畫、設定業務ハ昭和二年五月資源局、設置以來關係各廳ノ協力ニヨリ逐次ソ、業務ヲ進捗シ昭和四年六月十八日總動員計畫設定ニ關シ計畫、區分、計畫設定、擔任區分、計畫設定、順序及暫定期間計畫設定、手續ヲ規定セル總動員計畫設定處務要綱、閣議決定ヲ見之ニ基キ立案セラレタル總動員基本計畫綱領ハ昭和五年四月八日閣議ニ於テ決定セラレリ。總動員基本計畫綱領ハ戰時總動員實施ノ場合ニ準據スベキ各般ノ基本的方針乃至事項ヲ綜合的ニ計畫セルモ、ナルガ、戰時機關ノ組織、情報宣傳、戰時法令ノ準備、總復員、四項目ニ就テハ後日、研究ニ俟ツコトトシソ、決定ヲ見ズシテ今日ニ及ベリ。勿論之等ニ關シテモ爾後引續キ基礎案、研究ハ續行セラレタリ。資源、配當及補填ニ關スル事項、其、他資源、統制運用ニ關スル事項ニ付一定期間ニ

適用スベキ「期間計畫」トシテハ總動員計畫設定處務要綱ノ規定ニ從  
ヒ先ツ昭和五、六、七年度ニ於テ八、九、一〇年度ニ適用スベキ暫定  
總動員期間計畫綱領ノ設定ヲ行ヘル外七、八年度ニ亘リ滿洲事變ニ對  
應スル爲應急總動員計畫ノ設定ヲ見タリ爾後昭和九、十年度ニ於テ八十  
一、十二年度ニ適用スベキ第二次總動員期間計畫、十一、十二年度ニ  
於テハ十三、十四年度ニ適用スベキ第三次總動員期間計畫ノ設定ニ從  
事セリ。然ルニ昭和十二年七月今次事變勃發セル爲ニ事變處理ノ爲特  
ニ緊要ナル事項ニ付總動員實施ノ計畫ヲ樹立實行スルノ要ニ迫ラレ當  
時進行中ナリシ第三次總動員計畫ハ一應中絶ノ已ムヲ得ザルニ至リ、  
企畫院設置セララルヤ昭和十三年ニ適用スル計畫トシテ重要物資ノ配  
當及補填ニ關スル事項ヲ計畫セル昭和十三年物資動員計畫（六月二十  
三日改訂アリ）ヲ樹立實施セリ、昭和十四年度ニ適用スル計畫トシテ  
ハ同ジク重要物資ノ配當補填ニ關スル物資動員計畫ヲ主體トシ之レガ  
實行ノ完璧ヲ期スル爲必要ナル勞務、資金、交通電力、貿易ニ付出來得

ル限り具體的ナル計畫ヲ昭和十四年度國家總動員實施計畫トシテ設定  
スルコトトナリタル次第ニシテ第三次期間計畫ハソノ最初豫定ノ範圍  
及程度ニ於テハ計畫トシテ設定セラレザリシモ事實ハ其ノ適用期間タ  
ル十三、十四年度ニ於テ當面ノ緊急事項ニ範圍ヲ限定シ實施計畫トシ  
テ設定ヲ見タルモノトスベキモノナリ。昭和十五年度以降ニ對處スベ  
キ總動員計畫ニ付考察スルニ對支軍事行動ハ引續キ長期ニ亘リ繼續セ  
ラルヘキハ明ナルト共ニ緊迫セル刻下ノ國際情勢ニ鑑ミルトキハ何時  
第三國トノ間ニ戰爭勃發又ハ強度ノ經濟的壓迫ヲ蒙ル等ノコトナキヲ  
保シ難ク、幸ニシテ斯ノ如キ狀況ノ惡化ナシトスルモ對支軍事行動ヲ  
繼續シツツ基礎産業ノ生産力擴充、軍備充實、大陸經營等ノ大業ヲ完  
遂センタメニハ愈々國家總動員態勢ノ強化完璧ヲ期セザル可ラズ、即  
チ昭和十五年度以降ニ於テモ引續キ昭和十四年度總動員實施計畫ニ設  
定セル範圍程度（狀況ニ依リ計畫事項ノ範圍ノ増減ヲ必要トス）ノ計  
畫ハ必要トスルト共ニ狀勢ノ變化ニ應ジ第三國ト交戦ノ餘儀ナキニ至

レル場合又ハ經濟的壓迫等ヲ受ケタル場合ノ各般ノ措置ヲ計畫シ置ク  
要切ナルモノアリト思料セララル。

一方現下ノ内外情勢ニ對處スル爲ニハ茲暫クノ間專ラ軍備ノ充實ヲ  
圖ルト共ニ國力ノ擴充、即チ重要物資ノ生産擴充、人員、資金ノ充實、  
交通ノ整備等ヲ策シ且ツ列國軍備最高潮ニ達シ危機ヲ孕ムベキ時機ヲ  
目標トシ逐次綜合國力發揮ニ適當セル國內諸制度ヲ完備シ併セテ戰時  
諸計畫ヲ整備シ置キ内ハ官民ニ對シ必勝ノ信念ヲ強固ニシ、外ハ第三  
國ヲシテ我ニ進攻ノ餘地ヲ與フルコトナク戰ハスシテ東亞永遠ノ平和  
ヲ確保スル方途ヲ講ジ置クヲ最モ緊要トス。以上ノ諸點ヲ考慮シ昭和  
十五年度以降ニ於ケル國家總動員設定業務ハ次ノ三系統ニ要約セララル  
ベキモノト思料ス。

一、年度實施計畫

今次事變<sup>處</sup>處理ノ爲最モ緊要ナル事項ヲ中心トシ、第三國トノ交戦ノ餘儀ナキニ至レル場合又ハ強度ノ經濟壓迫ヲ受ケタル場合ニ於ケル各般ノ準備ヲモ考慮包含スルモノニシテ毎年樹立實施スベキモノ

二、第四次總動員期間計畫（假稱）

將來戦ニ適用スル綜合的國家總動員計畫ニシテ一應昭和十七年度ヲ戰爭第一年トシ昭和十七年、十八年度ニ適用スル計畫トス

三、國家總動員準備ニ關スル計畫

凡ソ國家總動員計畫ハソノ計畫ノ内容如何ニ詳細巧緻ヲ極ムルト雖モ國力ノ各部門ニ於テ平時ヨリ或程度ノ設施化ヲ圖ラサレバソノ實行容易ナラズシテ紙上計畫ニ墮スルコトハ自明ノ理ニシテ、既往總動員計畫ノ缺陷ノ重大ナル素因<sup>因</sup>又茲ニアリ、從ツテ前記總動員計畫ト並行シテ國力整備ニ關スル各般ノ措置ヲ施設スル爲相當長期ニ亘

ル計畫ヲ樹立シ置キコレガ實施ハ毎年度實施計畫ニ於テ出來得ル限  
リ計畫ノ豫定ヲ實現スル如ク指導スル必要アリ。幸ニシテ特定重要  
物資ニ付テハ既ニ十六年度末ヲ目標トスル長期整備計畫タル生産  
力擴充計畫アリ。資金、人員、貿易、交通ニ關シテモ同様一應十  
六年度末ヲ目標トシテ國力擴充ノ長期整備計畫ヲ樹立シ之等ノ計畫  
ニ於テハ第四次總動員期間計畫樹立ニ伴フ各般ノ要求ヲ充分織込ミ  
置クヲ要スルモノナリ。

總動員準備ニ關スル計畫ハ單ニ前述ノ範圍ニ止マラス綜合國力發揮  
ニ必要ナルベキ制度機構ニ付テモ併セ整備ヲ要スルコト勿論ナリト  
ス

別冊昭和十五年度以降ニ適用スベキ總動員計畫設定方針ハ大体前述ノ  
如キ着意ノ下ニ立案セルモノニシテ以下各章ニ付説明ヲ加フ。尙ホ前  
記國家總動員準備ニ關スル計畫ハ國家總動員計畫ノ範疇ニ包含スルコ  
トハ疑義アルヲ以テ設定方針ニ於テハ別途之ガ實現ヲ圖ルノ前提ノ下

ニ 國家總動員計畫トノ 關連事項トシテ併記シアル次第ナリ

七

IMT 682 257

## 第一章 總則

總則ニ於テハ昭和十五年度以降ニ於ケル總動員計畫ノ區分、設定要領ノ準據ヲ示ス外今後ニ於ケル國家總動員ハ日滿支ノ總力ヲ最モ有效ニ運用スベキ要アル實情ニ鑑ミ計畫全般ヲ通ジ特ニ着意スベキ點トシテコノ趣旨ヲ掲記セリ、又總動員基本計畫綱領ノ完成ニ就テハ十三年五月國家總動員會議ニ於テ一應十三年度中ニ之レガ作業ヲ終了スル豫定ナリシ處總動員實施ニ關スル諸施設ガ進行中ノ現状ニ於テハ此ノ實績ヲ參酌シテ再檢討ヲナスヲ適當ト認メラルルヲ以テ十五年以降ノ總動員計畫樹立ノ成果ヨリ歸納的ニ現行基本計畫綱領ノ補修ヲ完了スルヲ妥當ト認メソノ趣旨ヲ併セテ掲記セル次第ナリ、尙總動員計畫設定事務ニ關スル準據規程タル設定處務要綱ハ昭和四年六月ノ閣議決定ヲ得タルモノニシテ其ノ後行政機構ノ改編或ハ計畫設定事務ノ實際ノ經驗ニ徵シテ其ノ内容ノ細部ニ修正ヲ加フルノ要アル處根本ノ趣旨ニ於テハ特ニ變更ヲ要スベキモノアリトモ思料セズ又目下豫定スル



計畫着手ニ先立ツテ之レガ修正ヲ行ヒ之レガ爲多大ノ日子ヲ費スヨリ  
ハ細目ニ就テハ各廳ト適宜連繫協議シテ實行スル方寧ロ得策ナリト認  
メ何レハ改正ヲ爲スベキモ特ニ茲ニハ設定處務要綱ノ改正ノ點ニハ觸  
レザリシ次第ナリ

## 第二章 年度實施計畫ノ設定

年度實施計畫ニ包含スベキ事項ノ範圍程度及作成豫定期日等ヲ概定セ  
昭和十四年度實施計畫トシテハ科學動員、精神作興、物價ノ項ハ別ニ  
特記セザリシガ國家總動員計畫トシテ現下ノ狀況ニ於テハ他ト同様特  
掲スベキモノナルヲ以テ之ヲ加ヘタリ。但シ精神作興ニ關シテハ從來  
通り情報部中心トナリ企畫院ト連繫シツツ計畫樹立ノ中核機關ナルコ  
ト現行通りトスルノ意ナリ

又第三號ニ掲記スル事項ニ付テモ適宜事情ニヨリソノ範圍ヲ變更スル  
コトアルベキヲ豫期シアリ又年度實施計畫ハ樹立上彼此計畫間ニ矛盾  
撞着ナキ様スルコトニ努メ以テ綜合計畫ノ實ヲ舉クルコトトシ全部ヲ  
一括スル計畫書等ハ時日ノ關係上作ラザルコトト豫定シ、各廳計畫ニ  
付テモ本方針ニテハ設定ノ要否ヲ特ニ束縛セズ計畫事項ノ内容ニ應

ジ適宜處理スルコトトセリ

國家總動員準備ニ關スル長期整備計畫ハ既定生産力擴充計畫ノ完成年度ト歩調ヲ合セ、資金、人員、貿易、交通ニ付之レヲ樹立スルコトトシ既ニ大部分ハ當該總動員業務委員會ニ於テ其ノ趣旨ヲ以テ進ミツツアル處更ニ其ノ内容ヲ適切ニスベキ要アリ之等ハ企畫院内ニ於テハ當該主務部ニ於テ各廳トノ連繫ヲ執リテ進メラルル筈ナリ、年度實施計畫ニ於テハ極力長期整備計畫ノ豫定ヲ實現スル様各般ノ措置ヲ進ムベキモノトス

### 第三章 第四次期間計畫ノ設定

適用年次、計畫區分、計畫ト長期整備計畫、年度實施計畫トノ關連事項及業務豫定ヲ定メタリ

適用年次ヲ一應昭和十七年、十八年度トセル意味ハ十七年度十八年度ニ戰爭生起セル場合ニ本計畫ヲ適用スルノ意味ニシテ戰爭ガ二ケ年ニテ終熄スルノ意義ニアラズ今後ノ戰爭ガ相當長期ニ亘リ繼續セラルベキハ説明ノ要ナカルベク各般ノ對策モ之ヲ樹立スルニ當リテハ之ノ着意ヲ必要トスルコトハ勿論ナリトス

次ニ計畫區分ニ付テ説明ヲ加フルニ、總動員計畫設定處務要綱ニ於テハ期間計畫ハ内容概ネ

- 一 一定期間ニ適用スベキ資源ノ配當及補填ニ關スル事項
- 二 其ノ他一定期間ニ適用スベキ資源ノ統制運用ニ關スル事項
- 三 付計畫スルモノトセリ 從來ハ期間計畫ニ於テハ大體

一、ニ對シテハ配當及補填ニ關スル計數的計畫ト之レガ確保ヲ期スル  
各般ノ措置對策ヲ計畫シ

二、ニ對シテハ前號以外ノ管制的事項ヲ管制計畫トシテ計畫  
セルガ兩者ノ間ニ於ケル分別困難ナル部分アリ計畫整理上ノ混亂ヲ來

スト共ニ爾後審査檢討ノ際甚シク不便ヲ感ジ計畫ノ進捗ヲ阻害スルコ  
ト甚シク延テハ計畫ノ利用價值ヲ減殺セラレタル事實ニ鑑ミ本案ニ於  
テハ從來ノ缺陷ヲ是正スル意圖ノ下ニ

一、總動員實施上必要ナル方策乃至措置的事項ハ一括シテ之ヲ統制  
運用計畫トナシ

二、配當及補填ノ計畫ハ原則トシテ數字的需給計畫ノミヲ収録スル  
コトトセル次第ナリ

統制運用計畫ニ就テ

第三章ニ於テ總動員實施上必要ナル方策措置ニ關スル事項ト云ヘルハ大體資源ノ  
ノ統制運用計畫中數字的需給ノ計畫ヲ除外シタルノ意ナリ、凡ソ總動員計畫ハ戰爭規模、假想

敵國、列國ノ向背等ノ前提條件ヲ必要トスルハ原則的理論ナルベキモ  
國ノ全力ヲ擧ゲテ遂行スベキ將來戰ニ對處スル國內的ノ各般ノ措置方  
策ハ前提條件ノ如何ニ不拘自ラ決定ヲ見ルベキ性質ノモノニシテ統制  
運用計畫ニ於テハ此ノ種ノモノ大部分ナルベク、只對外的關係ニ左右  
セラルルコト多カルベキモノ例ヘバ貿易海運關係ノ如キモノニ付テハ  
特別ノ想定ヲ要シ之ノ下ニ立案セラルベク之ニ對シテハ本案ノ意圖ス  
ル處ハ最惡ノ場合ニ對處スル措置ヲ考慮シテ一案ヲ確立シ更ニ二案三  
案ト併セテ計畫シ實行性ヲ付與セントスル意ナリ  
從來ノ期間計畫ハ數字的計畫ニ餘リニ精力ノ大部ヲ使ヒ統制運用計畫  
ニ於テハ上ニ述リノ感深キモノアリ之レガ計畫ノ實行性ヲ減殺セル一因トナ  
リシ事實ニ鑑ミ本期計畫ノ主體ハ統制運用計畫ノ確立ヲ目途トスルコト  
ヲ着意シアルモノナリ又統制運用計畫ニ付テハ計畫綱領及各廳計畫ヲ設定ス  
ル豫定トナシアル處計畫綱領ニ於テハ數省ニ於テ實行スル事項ニシテ  
同一基準ノ下ニ實行ヲ要スル事項乃至要領即チ總動員全般統轄上必要

ナル基本的事項及一省ノミガ主體トナリテ實施スル事項ナルモ實施上各廳ニ重大ナル關連ヲ要スベキ事項等ニ關スル措置方策ノ大綱ヲ定ムルコトトシ各廳ニ於テ實施スル事項ハ各廳計畫トシテ確立セララルコトヲ期待スルモノナリ、勿論計畫綱領立案ニ際シテハ各廳計畫トナルベキモノヲ資料トシテ整備セザレバ計畫綱領ガ空論的ニ走ル虞アルヲ以テ此邊ノ着眼ヲ肝要トスル次第ナリ從來ノ計畫ニ於ケル缺陷ハ統制運用計畫特ニ各廳計畫ノ確立ニ歸スルコト多キニ鑑ミ此ノ點特ニ完璧ヲ期シ度シ

需給計畫ニ付テ

第四次期間計畫ニ於ケル數字的計畫ハ從來ノ計畫ガ過去ノ實績ヲ基礎トスル將來ノ計畫ニシテ計畫ガ出來上リタル場合ハ國勢ノ現狀ト著シク相違シ又國力ノ檢討ヲ行ハズシテ先ヅ軍需ノ提出ヲ求メテ之ヲ鵜呑ミニスル様作業ヲナセル結果計畫ノ辻褄ヲ合スルコトニ奔命シ戰時實行不可能ナルベキ大增產計畫ヲ豫定シ又ハ多量ノ戰時輸入ヲ

計畫スル等ノ弊ニ墮シタルニ鑑ミ今回ハ先ヅ各種長期準備計畫ニヨリ見透シニヨリ昭和十七、十八年度ニ於ケル國力ノ計數的豫察ヲ出來得ル限リ精確ニ行フコトト國民生活維持ノ最少限度ヲ嚴密ニ判定スルコトヲ第一段作業トシ之ニ依リ戰爭遂行ノ爲軍需ニ對シ最大幾何ノ資源ヲ提供シ得ルヤヲ觀察シ、之レニ對スル作戰ノ要求ヲ對比シ作戰ノ再求ヲ出來得ル限リ充足スル様更ニ供給力、軍需以外ノ需要等ヲ再檢討シ最後案ヲ作ラシコトヲ目途トシアリ

凡ソ戰爭ノ狀況ハ平時ニ於テ計畫セル處ト著シク相違ヲ生ジ來ルハ事實ノ示ス處ニシテ平時精密ニ調査セル軍需ト雖モ大ナル變化ヲ生ジ來ルコト既ニ既往期間計畫ト今次專變ノ狀況ヲ對比シテモソノ然ルヲ實證スルモノニシテ本需給計畫モ最終案ト雖モ此レヲ以テ直チニ其ノ儘實行シ得ル數字的計畫ト期待スルヨリ見透シノ腹ヲ定ムル上ニ於テ最大ノ價值ヲ有セシムル様樹立スルヲ目途トシアル次第ナリ、然シテ計畫表等ハ爾後狀況ノ變化ニ應ジ逐次修正ヲ容易ナラシムル様着意セン

トス

(終)



機密文書受領票

一 昭和十五年度以降國家總動員計畫設定方針

小番號 自 2 至 15 拾四部

右 受領ス

但シ昭和四年六月十日附拾五部送付越ス

昭和十四年六月十二日

受領者氏名印 山越道三



內閣官房總務課長殿

內閣

上

閣下第一五一號

案起

昭和十四年七月三日

閣議決定

昭和十四年七月四日施行

昭和 年 月 日

總動員機密理大臣 任

內閣書記官長

內閣書記官

諸

外務大臣

任

陸軍大臣

任

文部大臣

任

遞信大臣

任

厚生大臣

任

內務大臣

任

海軍大臣

任

農林大臣

任

鐵道大臣

任

近衛機密理

大藏大臣

任

司法大臣

任

商工大臣

任

拓務大臣

任

別紙企畫院總裁上申

昭和十四年度勞務動員實施計

畫綱領ニ関スル件  
右閣議ニ供ス

通牒案

昭和十四年七月四日

内閣書記官長

企畫院總裁宛

依命通牒

昭和十四年七月三日企畫院上申第六。現  
以上申ニ係ル昭和十四年度勞務動員

實施計畫綱領ニ関スル件上申ノ通  
閣議決定相成候

内閣

主任第三部 高橋書記官

企畫院上申第六〇號

昭和十四年七月三日

企畫院總裁 青木一



內閣總理大臣 男爵 平沼騏一郎 殿

昭和十四年度勞務動員實施計畫綱領ニ關スル件

昭和十四年度勞務動員實施計畫綱領別紙ノ通閣議決定相成様致度此  
段及上申候

閣甲一五一

內閣

總動員  
機密取扱

昭和十四年度勞務動員實施計畫綱領(案)

企 畫 院	昭 和 十 四 年 六 月 廿 日	小 番 號 第 151 號	企 計 E 勞 第 五 號 (四)
-------------	---	------------------------------	--

昭和十四年度勞務動員實施計畫綱領

第一章 總則

第一 本綱領ハ昭和十三年九月十三日閣議決定「昭和十四年度國家總動員實施計畫設定ニ關スル件」ニ基キ昭和十四年度勞務動員實施ノ基準トナルベキ事項ヲ定ムルモノトス

第二 本綱領ハ長期戰態勢下ニ於ケル勞働力ノ根基ニ培フト共ニ特ニ左ニ掲グル事項ノ達成ヲ目途トシテ勞務ヲ統制運用スルヲ以テ目的トス

- 一 軍需ヲ充足スルコト
  - 二 生産力擴充計畫ヲ遂行スルコト
  - 三 輸出ヲ振興スルコト
  - 四 國民生活ノ必需ヲ確保スルコト
- 第三 各廳ハ本綱領ニ基キ速ニ各廳實施計畫ヲ設定シ之ヲ實施スルモ

ノトス

滿支關係諸機關ニ於テハ本綱領ノ趣旨ニ準ジ勞務動員實施計畫ヲ設定シ夫々適切ナル對策ヲ講ゼシムル様措置スルモノトス

第一項ノ各廳實施計畫及前項ノ勞務動員實施計畫ノ要領ハ速ニ之ヲ企畫院ニ提出スルモノトス

第四 勞務動員實施ニ當リ特ニ重要案件ヲ生ジタルトキハ其ノ處理ハ勞務動員委員會ニ依リ之ヲ調整スルモノトス



第二章 一般勞務者需給調整方策

第五 昭和十四年度一般勞務者ノ需給計畫ハ内地ニ於ケル工業、鑛業及交通業勞務者ノ新規需要ヲ基礎トシ之ニ對スル供給力ヲ推測シテ設定スルモノトス

前項ノ計畫ニ付テハ滿洲移民等ニ關スル需給ヲモ考慮スルモノトス

第六 前記ノ需要數ハ左記各號ノ員數ヲ合算シタルモノトス

一 軍需産業、生産力擴充計畫産業及其ノ附帶産業、輸出及必需品産業並ニ運輸通信業ニ於ケル需要增加數

二 工業、鑛業及運輸通信業ニ於ケル減耗ノ補充ニ要スル數

三 滿洲移民等

前項ノ需要數ハ附表第一及第二ノ如ク之ヲ豫定スルモノトス

第七 前記ノ需要ハ左記各號ノ給源ヨリ之ヲ充足スルモノトス

一 昭和十四年三月新規小學校卒業者

二 物資動員計畫遂行ニ伴フ離職者

三 未就業者（手助ヲ含ム）

四 農業従事者

五 商業其ノ他ニ於ケル勞務節減可能ナル業務ノ従事者

六 女子無業者

七 移住朝鮮人

前項各號ノ給源ヨリ供給スベキ目標數ハ附表第三ノ如ク之ヲ豫定スルモノトス

第八 需給ノ適合ヲ圖ルガ爲就職ノ指導、斡旋ニ付一層積極的方法ヲ講ズルコトトシ、特ニ新規小學校卒業者其ノ他ノ年少者ノ就職ニ付之ガ統制ヲ強化スルモノトス

第九 物資動員計畫ノ遂行ニ伴フ離職者其ノ他青壯年者ノ轉就職ニ付テハ必要勞務ノ充足ニ資スル爲職業補導施設ヲ擴充スル等ノ方策ヲ

講ズルモノトス

第十 農村ヨリ勞務ヲ供出スルニ當リテハ農業ニ於ケル青年勞力ノ急減竝ニ其ノ地方的偏倚ノ實情ニ鑑ミ之ガ供出ヲ計畫化スルト共ニ地方ニ於ケル勞務行政機關ト經濟更生委員會等トノ連繫ヲ一層緊密ナラシムル様措置スルモノトス

農業生産確保ノ爲ニハ農業勞力調整計畫ヲ設定シ作業及施設ノ協同化、集團的移動勞働、勤勞奉仕、共同託兒共同炊事其ノ他ノ家事勞働施設、畜力機械力利用ノ擴充等ノ諸方策ヲ綜合シテ勞力ノ能率的利用ヲ圖ルト共ニ農村及都市ノ間ニ於ケル勞力ノ季節的調節ヲモ行フモノトス

第十一 商業其ノ他ニ於ケル比較的勞務ノ節減可能ナル業務ニ付テハ經營改善等ノ方法ニ依リ、勞務ノ節減ヲ圖ラシメ特ニ青年男女ノ使用ヲ緊要トセザルモノニ付テハ國家總動員法第六條ノ規定ニ依リ之ガ雇入ヲ制限シ其ノ他適當ナル方策ヲ講ズルモノトス

第十二 女子ノ勞務ニ關シテハ(職場ノ選擇ニ付適切ナル指導ヲ行ヒ輸出産業等特ニ女子ノ勞務ヲ必要トスル産業ノ需要ヲ充足スルコトヲ第一義トシテ未婚ノ不就業女子ニ付就業勸奨ヲ積極的ニ行フモノトス

第十三 朝鮮人ノ勞力移入ヲ圖リ適切ナル方策ノ下ニ特ニ其ノ勞力ヲ必要トスル事業ニ從事セシムルモノトス

第十四 一般勞務者ノ不足ニ因リ勞務動員實施計畫ノ遂行上重大ナル支障ヲ生ズルノ虞アル場合ニ於テ之ガ充足ニ付他ニ適當ナル方策ヲキトキハ徵用ノ手段ニ依ルモノトス

第十五 外地ニ關シテハ本章ノ趣旨ニ準ジ一般勞務者需給調整方策ヲ樹立スルモノトス

第三章 技術者並ニ熟練勞務者需給調整方策

第十六 昭和十四年度技術者ノ需給計畫ハ概ネ日滿支ヲ通ジ工業、鑛業及交通業ノ新規需要ヲ基礎トシ之ニ對スル供給力ヲ推測シテ之ヲ設定スルモノトス

第十七 前記ノ需要數ハ左記各號ノ員數ヲ合算シタルモノトス

- 一 日滿支ニ於ケル生産力擴充計畫産業ノ需要增加數
- 二 日滿ニ於ケル生産力擴充計畫附帶産業及軍需産業ノ需要增加數
- 三 内地ニ於ケル輸出及必需品産業並ニ運輸通信業ノ需要增加數
- 四 日滿支ニ於ケル工業、鑛業及運輸通信業ニ於ケル減耗ノ補充ニ要スル數

前項ノ需要數ハ附表第四ノ如ク之ヲ豫定スルモノトス

第十八 前記ノ需要ニ充ツベキ昭和十四年三月新規學校卒業業者數ハ附表第五ノ如ク之ヲ豫定スルモノトス

第十九 技術者ノ不足ヲ補フ爲不就業技術者ニ付組織的調査ヲ行ヒ其ノ就業及使用ノ勸奨斡旋ニ努ムルモノトス

第二十 現行檢定制度ヲ擴張活用スルト共ニ特別ノ技術認定制度ヲ創設シテ技術者補給ノ途ヲ拓クモノトス

第二十一 技術者ノ能率的利用ヲ圖ル爲左ノ方策ヲ講ズルモノトス

一 同一系統企業間中小工場間等ニ於テ技術者ノ融通又ハ共同利用ヲ爲サシムルコト

二 下請工場ニ對スル親工場ノ技術的指導範圍ヲ擴大セシムルコト

三 製品及製作方法ノ單純化、標準化等ヲ促進スルコト

第二十二 技術者分布ノ現況ニ付組織的調査ヲ行ヒ其ノ配置ヲ適正化スル爲積極的斡旋ニ努ムルモノトス

第二十三 技術者ノ不足ニ因リ勞務動員實施計畫ノ遂行上重大ナル支障ヲ生ズルノ虞アル場合ニ於テ之ガ充足ニ付他ニ適當ナル方策ヲキトキハ徵用ノ手段ニ依ルモノトス

第三十四 熟練勞務者ノ不足顯著ナル現状ニ鑑ミ經驗勞務者ニ對スル再教育施設ヲ擴充スルモノトス

前項ノ外熟練勞務者ノ需給調整ニ付テハ概ネ技術者ノ場合ニ準ジ措置スルモノトス

第二十五 工鑛業關係ノ技術者及熟練勞務者、土木建築技術者、醫療關係者、獸醫師、高級船員、無線通信士等ニ付計畫的養成ヲ行ヒ後年度ノ需要ニ應ズルモノトス

第四章 勞働力ノ培養及能率増進策

第二十六 勞務者ノ精神鍛鍊及紀律訓練ヲ一層徹底スルト共ニ保健、衛生施設ヲ擴充シ特ニ青少年勞務者ニ付體資増強ヲ圖リ以テ勞働生産性ノ向上ヲ期スルモノトス

第二十七 災害防止ノ徹底ヲ圖ル爲勞働過重ノ抑制、新入勞務者ニ對スル安全教育ノ徹底、設備ノ改良等有效適切ナル方策ヲ講ズルモノトス

第二十八 女子ノ時局産業ヘノ進出著シキ實情ニ鑑ミ特ニ其ノ保護ヲ強化スル爲適當ナル方策ヲ講ズルモノトス

第二十九 能率ノ増進ヲ圖ル爲作業ノ方法及設備ノ改善並ニ技能ノ公開、競技、表彰ヲ行フ等適切ナル方策ヲ講ズルモノトス

第三十 賃金ノ統制ヲ行フニ當リテハ勞務動員ノ見地ヨリ特ニ左ノ諸點ニ留意スルモノトス

一 勞務者ノ生活ノ恒常性ヲ確保スルコト



二 労働ノ生産性ヲ向上スルコト

三 勞務需給ヲ適正圓滑ナラシムルコト

第三十一 勞務者ニ對スル生活刷新運動ヲ一層徹底シ特ニ其ノ生活ヲ堅實化スル爲有效適切ナル方策ヲ講ズルモノトス

第三十二 勞務者ノ住宅問題及交通問題ハ勞務動員遂行上急速之ガ解決ヲ圖ルコトトシ之ニ關聯シテ工場ノ移轉新設等ニ付適當ナル對策ヲ講ズルモノトス

第五章 勞務動員機構其ノ他

第三十三 勞務動員計畫ノ實施ヲ確保シ其ノ運用ヲ圓滑ナラシムル爲

内外地ニ亘リ中央地方ヲ通ジ勞務行政機構ヲ整備改善スルモノトス

第三十四 勞務動員計畫ノ遂行ニ協力セシムル爲勞務管理ノ機構ヲ整

備セシムルト共ニ産業報國會ノ擴充ヲ圖リ其ノ活動ヲ促進スルモノ

トス

第三十五 勞務動員ノ基礎資料ヲ整備スル爲左ノ方策ヲ急速實施スル

モノトス

一 特ニ必要ト認メラルル勞務者ニ關シ登録ノ範圍ヲ擴張スルコト

二 勞務ノ需給ニ關シ定期的報告ヲ徵スルコト

三 都市及農村ヲ通ジ勞務ノ實狀及給源ヲ定期的ニ調査スルコト

附表第一

一般勞務者新規需要數

區分	需要增加數						減耗補充數	計
	軍需產業	生產力擴充計畫產業	前號ノ附帶產業	輸出及必需品產業	運輸通信業	小計		
男	一四六	一三七	一五二	一三〇	九五三	五五八	七一二	
女	一五	一六	一七	一六	一六	二〇九	三三〇	
計	一六一	一四三	一六九	一四六	一六五	六六七	一〇四二	

備考

- 一 附帶産業トハ例ヘバ採鑛選鑛精鍊用機械、原動機、電動機ノ製造業、鑄物業、土木建築業等生産力擴充計畫ノ遂行ニ伴ヒ當然擴張ヲ要スベキ産業ヲ謂フ
- 二 軍直接要員ハ別途トス
- 三 本表ハ事情ノ變化ニ即應シ本綱領第四ニ依リ適宜調整スルモノトス

附表第二

滿洲ニ於ケル新規需要數

區分	男	女	計
青少年義勇軍	三〇千人	一七千人	三〇千人
一般移民	一三	一七	二〇
工業勞務者	三	一	三
計	四六	七	五三

備考

本表ハ事情ノ變化ニ即應シ本綱領第四ニ依リ適宜調整スルモノトス